



学館連絡会議を創出する 学館連絡会議を創出する

昨秋、一学齋上ヶトモ権力と一体と云ひて管理時に於ては大變当局は、財政困难ととの見盤にして、新たに「学園管理制度」の申請を進めてゐる。「新潟波入管構想」もそのモデルケースとして「学園問題の組合的解決」の最高決策機関——「議会」、議長マツフも講演、「新聞雑誌取引法」と規制して、当局の情報管構造を始めとして学生管理制度の作用に上げんとしている。

当園の方用意日付、午時開館時間、通音との体制を如きに表現してい、並明理由として、補修工事上の問題に因るべ問題をあげてゐるが、補修工事上の問題は、補修計画を立て事に因る所であり、謝罪などを述べ通音する前言のものではある。さて、因げば問題で並明理由として意図的に選ばずの事に、學生を離れるという學院ノ要求に対する、反対力やメンバーとして相応氣しこそう人物と云ひて。ところが實田由田で、當局は「違反行為の為の開音使用取り消し、めぐらわせ管構造を行なう」、といふ本原の設定で、學生側の自主権制を強調している。それより一定の当局の杆を越えると権力の濫用行為計る「管構造」と、當局の許可範囲内での運営算計+學生の自主権制も算計し、避諱的に管構造と管構の二種を組むべからざる「管構造」の組み合わせで、其に付随する管構の管構体制の確立が當局の意図するところである。

前明 生田地区において、「学館連絡会議」を請求すべく、農・五箇生田、文連・理科連・体同連、その他多く連中の連合して「学館連絡会議」の開催へ勝ちとられ、吉田生田、生田農場を代表する連合と云ふ、当局も二地区の学館連絡会議成行するのを認め、開館活動を開始した。

ひじかし 前述してほしに、学館連絡会議の開催と相づつ、中間管構者へとオリ首へいく危険性を多くらんを以て、「学館」を源の管構全体から見る視覚を著々と、結果として当局の干渉行為を避けていく可能性があるといつてある。我々は、その様な傾向を推し、二地区の学館の自主権制を通り、「我々の空間の確保、拡大」する方同士を確認していく。

生じるのである。

管構とりまくがねは困難の外である。

本校における管構解剖課題 番号に於ける管構の自主権制を保障する管構会議の用達問題、生田地区にわける「我々の空間の確保、拡大」していく「学館」の二期工事の問題、そして、これらを眞切に、管構としての「学園管理制度」の問題は、早急に解決すべきところであるが、その前に、我々は、管構連絡会議の公序の止揚に同時に具体的な方向とて、我々は、管構連絡会議」を招定し、全ての管構の参加を呼びかける。

各地区の杆を取れ! 我々に居住する管構を検討する由で、管構の全体性を把握し、口の運営を駆け勝ちとし、管構連絡会議の前進を取つておこなひ